

1. めざす学校像

- ・校訓「人に愛される人 信頼される人 尊敬される人になろう」に基づき、「相互敬愛・思い遣り」の心を育成する

2. 中期的目標

(1) 近畿大学への進学

- ① 近畿大学の教育内容に係る理解の深化
- ② 柔軟な思考と学び方を身につけた社会に貢献できる自立した学習者の育成と近畿大学への進学

(2) 生徒育成の徹底

- ① 挨拶・礼儀の重視
- ② 自律して考え・判断し・行動できる生徒の育成
- ③ 各個人の権利の尊重、思い遣りの心・平等の心の育成
- ④ 学校行事・課外活動を通じ自主性・自発性の伸長、相互の友情と連帯感の深化、自己肯定感の醸成
- ⑤ 生徒会および各種委員会活動の活性化
- ⑥ 愛校心の育成

(3) 学習指導の徹底

- ① 授業の質を高め、生徒の授業満足度を高める
- ② 校内の全ての教育活動は、生徒が自立した学習者およびグローバル人材となるべく、何が生徒のためになるかを第一に考えて実施する
- ③ ICTを活用した教育力のスキルアップを常に目指し、未来を視野に入れて教育計画を立て、常に新鮮で創造的なアイデアを生み出すために多様な人材と協働して問題解決をはかる
- ④ 社会貢献マインドを持ったグローバル人材を育成するため、IB ディプロマプログラムの導入にむけての pre 期間として最終的な準備を行う
- ⑤ 学習過程の評価重視に係る検討・実践・観点別評価の研究・実践

(4) 進路指導の徹底

- ① 「大学附属校としての教育」がより充実したものになるよう検討を重ねるとともに、有為な人材が一人でも多く近畿大学に進学できるようにする
【上記(1)に記載】
- ② 特進クラスに於ける(難関)国公立大学志望者への進路指導の徹底と合格支援を行う
- ③ 各群・各学年・各教科担当者との連携を強化する
- ④ 生徒が大学進学後も意欲的に学びを継続できるよう適切な学部・学科を主体的に選択させる

(5) 健全な経営状況の維持

- ① 事業活動収支差額の安定的な黒字化
- ② 受験者数の確保と定員の充足

[以上(1)から(4)の目標を群別・学年制のもと、それぞれが連携しつつ、特色のある教育を展開する]

3. 令和5年度の取組み内容および自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
(1) 近畿大学への進学	①近畿大学の教育内容に係る理解の深化 ②柔軟な思考と学び方を身につけた社会に貢献できる自立した学習者の育成と近畿大学への進学	①a)近畿大学各学部の特長・内容の理解[高校] b)近畿大学オープンキャンパスへの参加[高校] c)各コースの進路目標にあわせた近畿大学各施設を用いた見学会・体験実習の実施[中高] ②a)コミュニケーション力・発信力・主体性の育成[高校] b)平素の授業を通じての基礎学力の定着[高校] c)年間計画に基づく上記①および②(a)(b)の実施[高校]	①a)単なる学部説明に終始しない工夫 b)高校1年全生徒の参加 c)近畿大学学園各施設を活用した各コースにあった見学会・体験実習の実施 ②a1)自らのキャリアデザインを1年次に2000字論文、2年次に計5000字論文に著し、3年次に卒業論文8000字以上を完成 a2)iPadを利活用した工夫、コミュニケーション力・発進力・主体性養成プログラムを実施 b)各科目定期試験に於いて一定点数以上（素点＋形成評価点） c)年間計画の実施と進学率	①a)理工学部、法学部、薬学部、経営学部、文芸学部、総合社会学部、農学部、経済学部、生物理工学部、建築学部、国際学部、情報学部で学部・学科説明の他、模擬講義を実施し、生徒の興味・関心を喚起した(延べ1800名の参加：満足した旨の回答93%)【オンラインまたは対面での実施】→次年度も継続して実施する b)8月19日に実施・参加[880名参加]（第1学年全生徒の参加：満足した旨の回答90%）→次年度も第1学年全生徒の参加とする c)近畿大学各施設に於いて年間計画に基づき実施→次年度も継続して実施する ・農学部「2023集まれ、アグリ村」に於ける計12回の農学部講師陣による講義を受講(全学年希望者対象)[高校]→オンライン実施 ・文芸学部「感性学入門」講座に於ける計3回の文芸学部文化デザイン学科講師陣による講義を受講(全学年希望者対象)[高校]→高校・大学校舎にて9月対面実施 ・生物理工学部現地見学・説明会(1年4J生希望者対象)[高校]→8月28日に現地で対面実施 ・近畿大学奈良病院見学[中学医薬コース1年]→コロナ禍のため中止 ・医学部見学・体験実習[中学医薬コース2年・4年]→7月14日・8月25日実施(満足度99%) ・近畿大学奈良病院での看護体験実習[中学医薬コース3年]→コロナ禍のため中止 ・薬学部見学実習[中学医薬コース1年]→コロナ禍のため中止 ・薬学部薬用植物園見学[中学医薬コース2年]4月25日に実施(満足度100%) ・湯浅農場農業体験通年プログラム[中学全コース2年]5月10日・7月12日・3月8日に実施(満足度100%) ・農学部奈良キャンパス体験学習[中学全コース1年]6月10日に実施(満足度98%) ・南紀体験学習(水産研究所に於ける学習を含む)[中学2年・3年希望者]7月25日～27日に実施(満足度95%) ・理工学部夢サイエンス[中学3年希望者]8月28日に実施(満足度100%) ・原子力研究所見学[中学2年希望者]7月11日に実施(満足度100%) ・生物理工学部実験実習[中学全コース1年]9月1日に実施(満足度95%) ・理工学部実験実習[中学英数コースアドバンスト1年]3月12日に実施(満足度88%) ・近畿大学英語村でのE-Challenge体験学習[中高全学年希望者]3月および8～9月の期間に実施(満足度100%) ②a1)1年次にテンプレート3ステップを活用した2000字論文を完成（進学コース・6ヵ年課程英数コースプログレス生徒）、2年次にテンプレートを活用した5000字論文を完成（進学コース・6ヵ年課程英数プログレスコース生徒）→卒業論文8,000～10,000字の完成・提出605名）→次年度も継続して実施する a2-1)iPadを用いたクラス別プレゼンテーションの実施(進学コース1年および6ヵ年課程英数コースプログレス1年[4月]→次年度も継続実施する a2-2)計画通り5月から原則として週1回「KINDAI LEADERS研修」を開催、『地方創成』について問題解決型学習方式を導入の上、生徒が主体的に学習。東大阪地域の課題を抱えている企業の、問題解決型商品開発プログラムにオンライン・対面で取り組んだ。(大いに役立った旨の回答100%) b)各科目一定点数未満者(素点＋形成評価点)→補習・再試験による指導→次年度も継続実施する c)近畿大学への現役進学率[対卒業生数]62.7%【令和4年度に比して－1.0%】
(2) 生徒育成の徹底	①挨拶・礼儀の重視 ②自律して考え・判断し・行動できる生徒の育成 ③各個人の権利の尊重、思い遣りの心・平等の心の育成 ④学校行事・課外活動を通じ自主性・自発性の伸長、相互の友情と連帯	①a)朝の挨拶指導の徹底・[中高]週番の活動による挨拶運動[中] b)2ヶ月毎の生活目標を設定[高] ②a)登校予鈴時刻までの着席と遅刻時の入室手続きの徹底[中高] b)登下校時の通学路に於ける周囲への心配りとマナー指導の徹底[中高] ③人権教育室と連携強化し、年	①a)朝の登校指導の実施[中高] b)2ヶ月毎の生活目標を校内の様々な場所に掲示し、全校生徒が一つの共通目標を目指して学校生活を充実させる[高] ②a)予鈴8時25分段階での担任教員による着席確認と遅刻情報を家庭と共有[中高] b)登下校時に於ける指導強化地点での登下校指導[中高] ③年間計画に基づく毎学期、学年毎の人権（権利・平等など）に関す	①a)自発的に挨拶できる習慣が定着した[中高] b)学校の教育目標の実現に大きく寄与[中高] ②a)登校時間厳守の徹底。遅刻管理システムによる保護者との情報共有ができたことにより、学校と家庭の双方から遅刻生徒への支援の働きかけが実現した。[高] b)登下校強化地点の登校指導を実施することにより、生徒一人ひとりがマナーを意識し実践する習慣を身につけることができた[中高] ③年間計画に基づき実施し、人権意識の向上に係る指導の充実を継続する[中高] ④a1)iPad等を活用した情報収集と、クラスまたはコースの目的に沿った校外学習内容を設定・実施できた[高] a2)文化クラブの発表会・有志によるダンスやバンドなどのパフォーマンスを披露・学級では趣向を凝らしたアトラクションや特色ある模擬店を出展し、数々の力作・力演が発表された[高]

	感の深化、自己肯定感の育成 ⑤生徒会および各種委員会活動の活性化 ⑥愛校心の育成	間計画に基づく人権教育室発信のワークシートによるホームルームの実施[中高] ④ a1)クラスまたはコース単位での校外学習の実施[高] a2)生徒会および文化委員会による近高祭(文化祭)の立案と実践[高] b)教科学習とクラブ活動の両立および自ら考え率先して行動する指導の徹底[中高] ⑤ a)生徒会による挨拶運動・SNS を利用した学校活動の紹介[中高] b)校則の見直し[高] ⑥a)通学圏地域に愛される学校作り[中高] b)自校教育推進[中高]	るワークシートを用いた課題の活用[中高] ④a1)生徒による校外学習の計画立案と実施[高] a2)生徒会が主となって近高祭が文化的かつ全校生徒が思い出深い行事となるよう企画と振り返り[高] b)教科学習とクラブ活動の両立および自ら考え率先して行動する指導の実践[中高] ⑤ a)生徒会執行部による朝の挨拶運動や校内の活動取材し、その内容をSNS などを使って情報発信[中高] b)生徒・教員・保護者へのアンケートを実施し、学校長へ校則の見直し要望書の提出。生徒と教員の話し合いの場を設置[高] ⑥a)本校に対するお礼や苦言など様々なご意見について、学校全体で組織的に向き合い、更なる成長を目指す[中高] b)クラスグループ毎、年間計画による指導[中高]	【実施後の生徒アンケートの満足度 85.1%で昨年より 8.3%上昇】[高] b)年間を通じ教科学習とクラブ活動との両立を実践。また、各クラブ員による挨拶の率先励行と各種学校行事に於ける率先行動が随所に見られた[中高] ⑤a)生徒会は様々な校内のコミュニケーションを経て、自校のことを調べ発信していくことにより、主体的な学びと連帯感の深化が見られた。そしてなにより、他の生徒が自分の学校のことをより良く知る機会となり、自校教育の深い学びへと繋がった[高] b)生徒会が全校生徒対象に様々なアンケートを行い、集計を分析することで、より良い学校環境の拡充に向けて話し合うことができた[高] ⑥a)本校に対するお褒めの言葉については、集会などで生徒を褒め称えて自己肯定感へと繋がった。また、苦情などについては、学年集会、HR 活動、サイバーキャンパスを通じて、生徒への問題の投げかけ・注意・支援行うことにより、一人ひとりが大規模校に通う生徒としての自覚を持つきっかけとなった。但し、雨天時学校周辺地域に於ける保護者による生徒送迎車両駐車に対する苦情について引き続き対策を講じる必要性あり[中高] b)年間計画のとおり実施し、自校教育の実現が見られた[中高]
(3) 学 習 指 導 の 徹 底	①授業の質を高め、生徒の授業満足度を高める ②校内の全ての教育活動は、生徒が自立した学習者およびグローバル人材となるべく、何が生徒のためになるかを第一に考えて実施する ③ I C T を利活用した教育力のスキルアップを常に目指し、未来を視野に入れて教育計画を立て、常に新鮮で創造的なアイデアを生み出すために多様な人材と協働して問題解決をはかる ④社会貢献マインドを持ったグローバル人材を育成するため、IB ディプロマプログラムの導入にむけての pre 期間として最終的な準備を行う ⑤学習過程の評価重視に係る検討・実践・観点別評価の研究・実践	①a)iPad の利活用による新しい授業実践[中高] b)学園内附属学校教育研究会の実施[中高] c)授業アンケートの実施と自己分析[中高] ②a)iPad を利活用したe-ラーニングによる英語4技能の育成[高校] b)エンパワーメントプログラムの実施[中高] c)アクティブラーニングの研究と採用[中高] d)年間計画に基づく TOEIC・TOEIC Bridge[高校]および TOEFL Primary[中学]の校内実施 e)年間計画に基づく海外語学研修・海外留学・国内研修[中高] ③a)授業・学校行事等高校生活に於ける様々な場面での iPad・各種アプリの利活用および教員の創意工夫による授業の実践[中高] b)生徒の自主性・積極性の育成 [中高] c)情報ネット社会に於けるいじめ・人権侵害に係る年間計画による指導[中高] ④ IB 教育室による計画の立案および担当教員による準備 [高] ⑤教育課程検討委員会を設置のうえ教育課程を修正し、学習過程評価の定着および観点別評価の研究・実践に取り組む。	①a)下記③の(a)を指標 b)学園内附属学校教育研究会への参加 c)生徒の満足度80%以上 ②a)通信環境があれば「いつでも・どこでも」学習できることを周知し、指導教員は年間計画のとおり指導 b)年間計画で校内実施 c1)アクティブラーニングによる課外授業実施 c2)教科内での研究 d)年間計画で実施 e)年間計画で実施 ③a)教職員による iPad 利活用内容 b)生徒の取組み c)年間計画による指導実践 ④年間計画で実施 [高] ⑤教育課程の修正、学習過程評価の定着および観点別評価の研究・実践	① a)下記③の(a1)～(a4)のとおり b)本校主催で附属学校教育研究会を開催し、本校教職員50名が参加した。初日は「学習評価等について」、「総合的な学習、探究の時間における実践と評価について」、「主体的・対話的で深い学びを実現する英語教育とは？」というテーマで3つの分科会に分かれ意見交換が行われた。2 日目には 5 教科の公開授業を実施し、各分科会で活発な議論が交わされた。 → 次年度は東広島校で開催予定 c)授業満足度（肯定的回答率） ・90.4% [高校] *授業はわかり易く工夫がされている【89.8%】 *授業・課題等で iPad やプロジェクター等が積極的に使用されていた【84.6%】 *授業・課題に於いて iPad やプロジェクター等で理解が深まった【81.6%】 *授業内容から興味・関心がわき、自ら学習しようとする気持ちが生じた【81.1%】 *教員は質問に的確に対応してくれる【92.4%】 *授業の進み方や内容(難易)はちょうど良い【88.2%】 *宿題(課題)の量や内容はちょうど良い【88.1%】 *総じて授業を真剣に受けている【94.4%】 ・86.0% [中学校] *毎回の授業の目標が明確に伝わっている【89.7%】 *声の大きさや話すスピードはちょうど良い【88.9%】 *白板(スライドを含む)はわかりやすく工夫されている【86.4%】 *宿題(課題)の量・内容はちょうど良い【87.1%】 *授業の進み方や内容(難易度)はちょうど良い【86.9%】 *授業によって興味・関心がわき、自ら学びたいと感じた【74.9%】 *授業内容に満足している【87.8%】 ②a) 英語5技能の総合的な育成を目指している。Cambridge University Press より Better Learning Partner の認定を受けた。これは約30名の教員が CELT-S 資格を有し、コミュニケーション・ランゲージ・ティーチングの実践が認められた成果である。民間の資格・検定試験の活用は継続する。 b)年間計画のとおり実施できた [中・高] プログラムの満足度は 100%であった →次年度の継続実施を決定 c1)清教学園高等学校や愛徳学園高等学校など他校生徒との共同プロジェクトや IB MYP プログラムを参考にしたコミュニティープロジェクトを学年縦割りで実施するなど新たに他者と関わる課外活動を重視→時代とニーズにマッチしたアクティブラーニングによる課外授業を行うために、年度に応じて刷新を行う。 c2)教育改革推進室と各教科教育改革推進担当者が定期的にミーティングを開き、

				アクティブラーニングを含めた授業展開とその評価法の研究を活発におこなった d)予定通り実施できた→次年度も継続して実施するが、近畿大学の BYOD 施策のため受験環境の整備が困難になることが見込まれており、新たなテストのフレームワークを考察する必要がある。 e1)中高一貫コース対象オーストラリア姉妹校研修・オープンパス語学研修、進学コース対象マルタ姉妹校研修、近畿大学入学予定者対象の 3 週間海外研修(個人単位・各国)、オープン 3 週間アイルランド研修を予定通り実施した。生徒たちは学びの成果を Vlog 等に残した。英語特化コースの中長期留学についても推奨実施。 e2-1)シンガポール英語研修(中学校課程・37 名)を実施【研修中のプログラム満足度・非常に満足 90.3％・やや満足 9.7％】→ 次年度も継続して実施する e2-2)ブリティッシュ・ヒルズ研修(中学校課程 12 名)を福島県で実施[中学]【研修中のプログラム満足度・非常に満足 78.6％・やや満足 21.4％】 ③a1) Apple 社から本校が Apple Distinguished School として 4 度目の認定更新を受け継続中である[2021-2024 2021.8 認定] [高校] a2)Apple Distinguished Educator に 6 名の教員が資格継続 [高校] a3)本校教員および学外教育関係者を対象に教育(IB 教育)を考えるイベントとして SET KINDAI を開催した。 Session1(全体ワークショップ), Session2(選択式の 6 つのワークショップ), Session3(パネルディスカッション探究型教育の舞台裏)を実施。[中高] b1)文化祭に於いて自分で考え何かを作り出し展示・発表する【利活用の自由度を付与し、生徒もそれに応えている】 b2)文理コース 2 年生が「課題研究 ポスターセッション」を実施(12 月)。1 名が第 9 回高校生国際シンポジウムに参加した。→ 次年度も継続実施する c)SNS 講習会を実施[中 1]、インターネットモラル教室をオンライン実施[高 1]し、HR での指導 → 次年度も継続して実施する ④ DP ミーティングを年間で計画し、管理職と IB 教員の情報を交換できた。IB 教員研修として IB 機構の公式ワークショップに 8 名が参加し、修了した。IB 教育の普及のため、オンライン説明会を学校内外向けに年間で 5 回計画し、実施できた。[高] ⑤教育課程検討委員会を設置し教育課程を修正した。教育改革推進室を中心に授業展開と学習過程評価の定着および観点別評価の研究・実践に取り組んだ。
--	--	--	--	---

(4) 進路指導の徹底 【但し、①については、中期的目標の（１）に記載する】	②特進クラスに於ける(難関)国公立大学志望者への進路指導の徹底と合格支援を行う ③各群・各学年・各教科担当者との連携を強化する ④生徒が大学進学後も意欲的に学びを継続できるよう適切な学部・学科を主体的に選択させる	②下記の③④を年間計画[高校] ③・年間計画に基づく指導[高校] a)特進クラスの群・学年・教科担当者の連携と指導力の強化 b)研修会や説明会を通じて生徒の目標達成の支援 c)過年度生への支援 ④・教員が国公立大学進学情報、在籍生徒の成績分析結果および志望状況に関する情報を共有化した上での細かな進路指導を実施[高校] また、生徒自身が将来像を描き進学目標を定められるよう、講演会や進学イベントを年間計画に基づき実施[高校]	②・合格実績 ③・年間計画に基づく実施 ④・年間計画に基づく実施	②・難関国立１０大学・国公立大学医学科・大阪公立大学合格者数計４８名(含過年度生)[京都大学３名・大阪大学１３名・神戸大学７名・九州大学２名・大阪公立大学２２名・愛媛大学医学科１名]【対前年度１７名減少】 ・国公立大学合格者数(含過年度生)計１４７名【対前年度１７名減少】 ③・年間計画に基づいて実施できた a)各種学外入試研究会への参加と情報収集と情報共有 a2)予備校講師による英語科教員研修〔１２月〕[３７名参加]【実施後のアンケートによる満足度１００％(非常に満足８０.６％・満足１９.４％)】 a3)予備校講師による数学科教員研修〔２月〕[１９名参加]【実施後のアンケートによる満足度・非常に満足１００％】 b1)入試情報分析説明会[６月](高３年希望生徒・保護者対象)[約１８０名参加] b2)大学入試動向説明会[１１月](高３年希望生徒対象)[１６０名参加] b3)大学入学共通テストリサーチに係る合同ホームルーム[１月](高３年希望生徒対象)[２１０名参加] c)過年度生への激励メッセージの記入[７月・１２月] ④・年間計画に基づいて実施できた ・学内進路資料の作成 ・教員対象各種学外研究会内容の周知 ・高大接続およびキャリア教育各種体験型行事への生徒参加促進 ・『学びの記録』の生徒利活用促進 ・キャリアパスポートの作成、回収、学年間・校種間の引継ぎ等についての周知 ・進路志望調査の実施[５月](高３年全生徒対象) ・進路志望調査の実施[６月](高１・２年生全生徒対象) ・進路適性検査「学びみらいPASS」の実施[７月](高１特進クラス全生徒対象) ・夢ナビライブ（模擬講義や教授との進路相談など、進路を考えるオンラインイベント）〔７月・１０月〕（高１・２年希望生徒対象）〔４７０名参加〕 ・進路適性検査結果に係る教員対象説明会の実施[９月] ・一日看護師体験の実施[７月](高２・３年生希望生徒対象)〔７名参加〕 ・高校生保育園職場体験の実施[夏期休暇中](高１・２年生希望生徒対象)〔２名参加〕 ・進路志望調査の実施[９月](高２年生全生徒対象) ・進路志望調査の実施[10月](高１年生全生徒対象) ・神戸大学工学部出張授業〔７月](高２・３年希望生徒対象)〔５５名参加〕 【実施後のアンケートによる満足度１００％(非常に満足７２％・満足２８％)】 ・神戸大学国際人間学部出張授業〔７月](高２・３年希望生徒対象)〔３２名参加〕 【実施後のアンケートによる満足度１００％(非常に満足６７％・満足３３％)】
(5) 健全な経営状況の維持	①事業活動収支差額の安定的な黒字化 ②受験者数の確保と定員の充足	①・ICT教育環境の整備を引き続き行い、全生徒が問題なくタブレット端末を利活用できるようにし、新たな整備のために、従来からの情報系保守・運用管理費用の削減を行う[中高] ②・安定的な収入を確保するため、生徒募集を強化し、受験者の確保、定員の充足に努める[中高]	①・決算での事業活動収支差額の黒字化 ②a)入学試験に於ける実質競争倍率 b)募集人員の充足	①・経常収支としては黒字を維持したが、光熱水費・空調更新・動力盤更新・剣道場床張替・理科実験室実験台等取替・出張旅費等での支出が増加 ②a)入学試験に於ける実質競争倍率 高等学校 1.06 倍 中学校 前期入試 1.23 倍・後期入試 1.41 倍 b)募集人員を充足した[中高]